

教科・科目	地理歴史・地理総合	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	1	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：地理A				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付ける。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとする。</p>
使用教科書 副教材等	<p>高等学校 新地理総合（帝国書院）</p> <p>新詳高等地図（帝国書院）</p>

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地理に関わる諸事情に関して、世界の生活文化の多様性、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や特色、相互の関連や概念などを活用して多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明する力を身に付けている。	地理に関する諸事情の課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して、日本国民としての自覚や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについて自覚などを深めようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	第1部 地図でとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	第2部 国際理解と国際協力			
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち			
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第1部 地図でとらえる現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	第2部 国際理解と国際協力			
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち			
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者	先生				登録		
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 第1部 地図と地理情報システム 結び付きを深める現代世界	前1	1	2		4/20	4/21	—	4/17
			3	4					
	② 第2部 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	前2	1	2		5/11	5/12	—	5/8
			3	4					
	③ 第2部 世界の言語と人々の生活文化 歴史的背景と人々の生活	前3	1	2		5/25	5/26	—	5/22
			3	4					
	④	この回は、実施されません。							
⑤ 第2部 世界の産業と人々の生活	前4	1	2		6/22	6/23	—	6/19	
		3	4						
⑥ 第2部 地球的課題と国際協力	前5	1	2		7/6	7/7	—	7/3	
		3	4						
⑦ 第3部 自然環境と防災	前6	1	2		7/20	7/14	—	7/17	
		3	4						
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試		8/17	8/18	—	8/21
後期	⑧ 第1部 地図と地理情報システム 結び付きを深める現代世界	後1	1	2		10/12	10/20	—	10/9
			3	4					
	⑨ 第2部 世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	後2	1	2		10/26	10/27	—	10/23
			3	4					
	⑩ 第2部 世界の言語と人々の生活文化 歴史的背景と人々の生活	後3	1	2		11/9	11/10	—	11/13
			3	4					
	⑪	この回は、実施されません。							
⑫ 第2部 世界の産業と人々の生活	後4	1	2		12/7	12/8	—	12/4	
		3	4						
⑬ 第2部 地球的課題と国際協力	後5	1	2		12/21	12/22	—	12/18	
		3	4						
⑭ 第3部 自然環境と防災	後6	1	2		1/11	1/19	—	1/8	
		3	4						
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試		1/25	1/26	—	1/22

6 先生からのメッセージ

世界には様々な気候や風土、暮らしや文化、考え方があり、多様な人々が生活しています。世界の人々と理解しあうためには、視野と価値観を広げていくことが必要です。基本的な知識を身に付けていくために、できるだけ毎回スクーリング出席し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	地理歴史・歴史総合	単位数	2（前期又は後期）		
		ライン	1	開講期	前期又は後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：世界史A				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。</p> <p>(3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決する態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	明解 歴史総合（帝国書院）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決する態度を身に付けている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	歴史の扉 近代化と私たち 国際秩序の変化や大衆化と私たち グローバル化と私たち	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	歴史の扉 近代化と私たち 国際秩序の変化や大衆化と私たち グローバル化と私たち	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	選択した時期（前期又は後期）に、2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	選択した時期（前期又は後期）に、1回～6回のすべてに合格すること。	
試験	選択した時期（前期又は後期）に、1回合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 歴史の扉 江戸時代の日本と結び付く世界 欧米諸国における近代化	前1	1	2	4/20	4/21	—	4/17	
	3		4						
	② 近代化の進展と国民国家形成 アジア諸国の動揺と日本の展開	前2	1	2	5/11	5/12	—	5/8	
	3		4						
	③ 近代化が進む日本と東アジア 第一次世界大戦と日本の対応	前3	1	2	5/25	5/26	—	5/22	
	3		4						
	④	この回は、実施されません。							
⑤ 国際協調と大衆社会の広がり 日本の行方と第二次世界大戦	前4	1	2	6/22	6/23	—	6/19		
3		4							
⑥ 再出発する世界と日本 冷戦で揺れる世界と日本	前5	1	2	7/6	7/7	—	7/3		
3		4							
⑦ 多極化する世界 グローバル化のなかの世界と日本	前6	1	2	7/20	7/14	—	7/17		
3		4							
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/17	8/18	—	8/21	
後期	⑧ 歴史の扉 江戸時代の日本と結び付く世界 欧米諸国における近代化	後1	1	2	10/12	10/20	—	10/9	
	3		4						
	⑨ 近代化の進展と国民国家形成 アジア諸国の動揺と日本の展開	後2	1	2	10/26	10/27	—	10/23	
	3		4						
	⑩ 近代化が進む日本と東アジア 第一次世界大戦と日本の対応	後3	1	2	11/9	11/10	—	11/13	
	3		4						
	⑪	この回は、実施されません。							
⑫ 国際協調と大衆社会の広がり 日本の行方と第二次世界大戦	後4	1	2	12/7	12/8	—	12/4		
3		4							
⑬ 再出発する世界と日本 冷戦で揺れる世界と日本	後5	1	2	12/21	12/22	—	12/18		
3		4							
⑭ 多極化する世界 グローバル化のなかの世界と日本	後6	1	2	1/11	1/19	—	1/8		
3		4							
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	1/25	1/26	—	1/22	

6 先生からのメッセージ

歴史総合では、世界の歴史の展開を、世界史だけでなく日本史の視点も活用して学習していきます。その2つの視点から歴史を見ることで自分の価値観を広げていきましょう。そのために、できるだけ毎回スクーリングに出席し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	地理歴史・世界史探究	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	4	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：世界史B				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を調べ、まとめることができる。</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりすることができる。</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、社会の課題を主体的に探究しようとする態度を身に付け、日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとする。</p>
使用教科書 副教材等	詳説世界史（山川出版社）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けて理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を調べ、まとめている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を身に付けている。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、社会の課題を主体的に探究しようとする態度を身に付け、日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	世界史へのまなざし 第1部 諸地域の歴史的特質の形成 (第1章～第5章) 第2部 諸地域の交流・再編 (第6章～第10章)	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	第2部 諸地域の交流・再編 (第11章) 第3部 諸地域の結合・変容 (第12章～第17章) 第4部 地球世界の課題 (第18章～第19章)	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者	先生				登録			
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日				
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S	
前期	①	世界史へのまなざし・第1章 文明の成立と古代文明の特質	前1	1 3	2 4	4/20	—	4/22	4/24	
	②	第2・3章 中央ユーラシア と東アジア、南アジアと東南 アジアの展開	前2	1 3	2 4	5/11	—	5/13	5/15	
	③	第4章 西アジアと地中海周 辺の国家形成	前3	1 3	2 4	5/25	—	5/27	5/29	
	④	この回は、実施されません。								
	⑤	第5・6章 イスラム教の 成立と伝播及び西アジアの動 向、ヨーロッパ世界の形成	前4	1 3	2 4	6/22	—	6/24	6/26	
	⑥	第7章 ヨーロッパ世界の変 容と展開	前5	1 3	2 4	7/6	—	7/8	7/10	
	⑦	第8・9・10章 東アジア世 界の展開とアジア諸帝国の繁 栄、大交易・大交流の時代	前6	1 3	2 4	7/20	—	7/22	7/24	
	試験	レポート前1～前6の内容		本 試 験	追 再 試	8/24	—	8/26	8/28	
後期	⑧	第11章 近世ヨーロッパ世界 の動向	後1	1 3	2 4	10/12	—	10/14	10/16	
	⑨	第12章 産業革命と環大西洋 革命	後2	1 3	2 4	10/26	—	10/28	10/30	
	⑩	第13章 イギリスの優位と欧 米国民国家の形成	後3	1 3	2 4	11/9	—	11/11	11/6	
	⑪	この回は、実施されません。								
	⑫	第14・15章 アジア諸地域の 動揺、帝国主義とアジアの民 族運動	後4	1 3	2 4	12/7	—	12/9	12/11	
	⑬	第16・17章 第一次世界大戦 と世界の変容、第二次世界大 戦と新しい国際秩序の形成	後5	1 3	2 4	12/21	—	12/23	12/25	
	⑭	第18・19章 冷戦と第三世界 の台頭、冷戦の終結と今日の 世界	後6	1 3	2 4	1/11	—	1/13	1/15	
試験	レポート後1～後6の内容		本 試 験	追 再 試	2/1	—	2/3	1/29		

6 先生からのメッセージ

世界史探究は、歴史総合に比べると、扱う年代や国・地域がより広範となります。専門性が高まるのはもちろんですが、それだけではなく、皆さんが抱いた疑問や探究したい事柄について、自ら考察していこうとする科目です。「歴史を学ぶ」だけではなく、「歴史に学び、歴史を生かす」という主体性をもって受講しましょう。

教科・科目	地理歴史・日本史探究	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	3	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：日本史B				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、構想したことを説明する力を身に付ける。</p> <p>(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	詳説日本史（山川出版社）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、構想したことを説明する力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	日本文化のあけぼの、古墳とヤマト政権 律令国家の形成、貴族政治の展開 院政と武士の躍進、武家政権の成立 武家社会の成長、近世の幕開け	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	幕藩体制の成立と展開、幕藩体制の動揺 近世から近代へ、近代国家の成立 近代国家の展開、近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦、占領下の日本 高度成長の時代、激動する世界と日本	・レポート ・試験	・レポート ・試験	・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権	前1	1 3	2 4		4/20	—	4/22	4/24
	② 律令国家の形成	前2	1 3	2 4		5/11	—	5/13	5/15
	③ 貴族政治の展開	前3	1 3	2 4		5/25	—	5/27	5/29
	④	この回は、実施されません。							
	⑤ 院政と武士の躍進 武家政権の成立①	前4	1 3	2 4		6/22	—	6/24	6/26
	⑥ 武家政権の成立② 武家社会の成長①	前5	1 3	2 4		7/6	—	7/8	7/10
	⑦ 武家社会の成長② 近世の幕開け	前6	1 3	2 4		7/20	—	7/22	7/24
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試		8/24	—	8/26	8/28
後期	⑧ 幕藩体制の成立と展開①	後1	1 3	2 4		10/12	—	10/14	10/16
	⑨ 幕藩体制の成立と展開② 幕藩体制の動揺①	後2	1 3	2 4		10/26	—	10/28	10/30
	⑩ 幕藩体制の動揺② 近世から近代へ	後3	1 3	2 4		11/9	—	11/11	11/6
	⑪	この回は、実施されません。							
	⑫ 近代国家の成立 近代国家の展開	後4	1 3	2 4		12/7	—	12/9	12/11
	⑬ 近代の産業と生活 恐慌と第二次世界大戦	後5	1 3	2 4		12/21	—	12/23	12/25
	⑭ 占領下の日本 高度成長の時代 激動する世界と日本	後6	1 3	2 4		1/11	—	1/13	1/15
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試		2/1	—	2/3	1/29

6 先生からのメッセージ

日本の歴史を学習することは、今を生きる私たちにとって大切なことです。日本史の学習を通じて、過去の日本と日本人が歩んできた道のりを追体験でき、さらに日本文化の素晴らしさを再認識することができます。今後の私たちや日本の生き方や在り方について考えていくために、できるだけ毎回のスクーリングに参加し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。

教科・科目	地理歴史・地理探究	単位数	4（前期2＋後期2）		
		ライン	3	開講期	前期と後期
備考	令和3年度以前の教育課程読み替え科目：地理B				

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、諸資料から地理に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、系統地理的、地誌的に、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを説明する力を身に付ける。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を身に付ける。</p>
使用教科書 副教材等	地理探究（二宮書店） 新詳高等地図（帝国書院）

2 評価の観点等

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、諸資料から地理に関する様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、系統地理的、地誌的に、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを説明する力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。
評価点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点	前期 50 点/後期 50 点

3 評価の計画

学期	単元	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	地形、気候と生態系、世界各地の自然と生活 日本の自然環境と防災、地球環境問題 農林水産業、資源・エネルギー、工業 第3次産業、交通・通信、貿易・観光 人口、村落・都市	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点
後期	生活文化と言語・宗教、国家とその領域 地域区分、現代世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート ・試験
	評価点	50 点	50 点	50 点

4 単位修得の条件（次の「スクーリング」、「レポート」、「試験」の条件をすべて満たすことが必要。）

スクーリング	前期2回以上、後期2回以上出席すること。	
	放送視聴について	実施しない。
	教科別質問教室について	スクーリング回数に含めることができない。
レポート	前1回～前6回、後1回～後6回のすべてに合格すること。	
試験	前期1回、後期1回、それぞれに合格すること。	

5 学習の記録		添削担当者				先生		登録	
スクーリング回数	学習内容	レポート				スクーリング実施日			
		回	提出日・合格			日S	月S	火S	木S
前期	① 地形	前1	1	2	4/20	—	4/22	4/24	
	3		4						
	② 気候と生態系 世界各地の自然と生活	前2	1	2	5/11	—	5/13	5/15	
	3		4						
	③ 日本の自然環境と防災 地球環境問題 農林水産業	前3	1	2	5/25	—	5/27	5/29	
	3		4						
	④	この回は、実施されません。							
⑤ 資源・エネルギー 工業	前4	1	2	6/22	—	6/24	6/26		
3		4							
⑥ 第3次産業 交通・通信 貿易・観光	前5	1	2	7/6	—	7/8	7/10		
3		4							
⑦ 人口 村落・都市	前6	1	2	7/20	—	7/22	7/24		
3		4							
試験	レポート前1～前6の内容		本試験	追再試	8/24	—	8/26	8/28	
後期	⑧ 生活文化と言語・宗教 国家とその領域	後1	1	2	10/12	—	10/14	10/16	
	3		4						
	⑨ 地域区分 中国 朝鮮半島	後2	1	2	10/26	—	10/28	10/30	
	3		4						
	⑩ 東南アジア 南アジア	後3	1	2	11/9	—	11/11	11/6	
	3		4						
	⑪	この回は、実施されません。							
⑫ 西アジア・中央アジア 北アフリカ・サブサハラアフリカ	後4	1	2	12/7	—	12/9	12/11		
3		4							
⑬ ヨーロッパ ロシア	後5	1	2	12/21	—	12/23	12/25		
3		4							
⑭ アングロアメリカ ラテンアメリカ オーストラリア	後6	1	2	1/11	—	1/13	1/15		
3		4							
試験	レポート後1～後6の内容		本試験	追再試	2/1	—	2/3	1/29	

6 先生からのメッセージ

私たちの身の回りには、世界各地で生産された物があります。このような社会に住んでいると、世界はどこでも同じような考え方で、同じような生活が送られていると思いがちです。しかし、世界には様々な気候や風土、暮らしや文化、考え方があり、多様な人々が生活しています。世界の人々と理解しあうために、できるだけ毎回のスクーリングに参加し、分からないことがある場合は、教科別質問教室に参加し、解決していくようにしましょう。